

# 創立四十五周年記念大会

とき：平成二十八年七月二十一日  
ところ：上七軒歌舞練場

## 第一部 式典

平成二十八年七月二十一日、百年余りの歴史を有する上七軒歌舞練場において、神道政治連盟京都府本部「創立四十五周年記念大会」が盛大に開催された。

大会には、田中恆清京都府神社庁長をはじめ多くのご来賓や関係者ら約四〇〇名が出席し、会場は超満員となり、周年の佳節を祝った。

第一部記念式典は、藤森幹事長の司会進行により、国旗儀礼、後藤副本部長の開会の辞、神宮遙拝、国歌斉唱と続き、梶本部長により教育勅語が厳かに奉読された。次に今崎副幹事長の先導により綱領が唱和された後、梶本部長から「昨年度が創立四十五周年の節目の年にあたり、この記念大会をもって四十五周年の記念事業が完遂する。一年間をかけて色々な活動を展開してきたが、特に、沖繩で亡くなられた京都府出身の戦歿英霊顕彰のため建立された「京都の塔」の敷地に国旗掲揚塔を設置させていただいたこ



とが大きな事業となった。今後は、役員改選で一新しい新体制のもと、憲法改正を柱として、役員一同活動に邁進する」と力強く挨拶した。

次に、当本部表彰規程に則り功績者表彰が執行われ、林秀俊前本部長、花房義久・吉田武雄両前副本部長にそれぞれ表彰状が、小島廣政前副幹事長、進藤秀保前財務委員長にそれぞれ感謝状が贈呈された。

次に、ご列席頂いたご来賓の紹介と祝電の披露があり、来賓を代表して田中恆清京都府神社庁長、打田文博神道政治連盟会長、西田昌司自民党京都府連会長より鄭重な祝辞を賜った。また、先の参議院議員選挙で見事再選された山谷えり子、二之湯さとし両参議院議員より御礼のご挨拶を頂戴した。

次に、荒巻禎一京都府神社総代会会長の先導により聖壽万歳が行われ、室川副本部長による閉会の辞、最後に国旗儀礼をもって第一部記念式典を閉式した。

第二部には、テレビでも活躍されるケント・ギルバート先生の講演があり、大垣副本部長が謝辞を述べた。

第三部は、上七軒芸舞妓による祝いの舞が披露され式典に彩りを添えて頂いた。

## 第二部 講演会

「だから日本は素晴らし」

世界があこがれるこの国に暮らして」

講師 米国カリフォルニア州弁護士

ケント・ギルバート 先生

正に賛成です。私は、間違ひなく憲法改正の方向に動いていると思います。日本は大国です。大国としての役割を果たすために自立する必要があります。自分で自分の国を積極的に守ろうとしない国は考えられません。自立するための第一歩が、憲法改正ではないでしょうか。いつまでも自虐史観をもっているのは駄目です。真の平和を考えなくてもいい、いや、考えてはいけないとさえ思われた時代が長すぎました。そろそろ国民は目を覚ます時期が来ました。

(文責 神尾副幹事長)

## 第三部 清興

祝舞

『夏は蛩』 勝奈 尚絹

『岸の柳』 勝音

『北野小唄』 勝音 勝奈 尚絹

唄・三味線 勝也



隊もない国がどうやって自国を守るのか。「憲法第九条こそ憲法違反」です。米国人として断言しましよ

う。ただ単に、強すぎた日本を弱い国にしたいから憲法九条を作った。つまり制裁です。またGHQは、日本のマスコミを使って、日本人の価値観を壊して精神の奴隷化を目指した洗脳政策を行います。日本人の多くは自虐史観を持っていて、戦後、日教組は子供たちにこれを植え付け、それによって自立心が欠如し、依存症 となりました。恐ろしいのは権威依存症です。大学教授や憲法学者だからといった権威に惑わされてはいけません。そして世論のメディア支配は、戦後の洗脳政策が今も続いています。日本のマスコミは、自分たちが世論をつくって、そして世論を誘導するのが使命だと勘違いしています。これは大問題です。今、米軍なしで自衛隊だけでは戦争抑止力になりません。つまり平和憲法は効果を発揮していません。これは依存憲法といふべきでしょう。「米国属国憲法」と米国人の私に言われて、腹の立たない日本人はどうかしています。日本は大国です。大国としての役割を果たすことを期待されています。安倍総理が安保法制の可決前にかなり外遊をしました。この法制に反対したのは中国と北朝鮮だけです。韓国も反対していません。日本でもその後安倍総理の支持率はあがりました。マスコミは何を言っているのでしょうか。最新の世論調査では、憲法九条抜きであれば三分の二以上の国民が憲法改



# 新役員紹介

《任期：平成28年4月1日～平成31年3月31日》

役職	氏名	神社名・役職名
本部長	梶道嗣	北野天満宮 禰宜
副本部長	後藤重和	倭文神社 宮司
副本部長	室川喜幸	吉田神社 権禰宜
副本部長	大垣守弘	京都府氏子青年連合会 顧問
幹事	藤森長正	藤森神社 禰宜
副幹事	中小路宗俊	長岡天満宮 宮司
副幹事	田中朋清	石清水八幡宮 権宮司
副幹事	藤木保誠	賀茂別雷神社 権禰宜
副幹事	堀川宏史	内神社 権禰宜
副幹事	神尾和俊	平安神宮 権禰宜
副幹事	今崎聡	八坂神社 権禰宜
副幹事	稲本高統	大井神社 権禰宜
副幹事	小松隆志	京都府氏子青年連合会 顧問
副幹事	竹之内實	京都府神社総代会 参与
副幹事	林善嗣	京都府神社総代会 評議員
会計責任者	松田正行	石清水八幡宮 権禰宜
会計職務代行者	高田和史	大川神社 宮司
組織委員長	上田榮英	摩氣神社 宮司
財務委員長	坂本利正	京都府神社総代会 副会長

役職	氏名	神社名・役職名
綱紀委員長	横山義雄	京都府神社総代会 理事
監査委員長	松本和宏	京都府神社総代会 参与
事務局長	中嶋茂博	京都府神社庁 参事
組織委員長	松井利光	稲植神社 宮司
組織委員長	西田利弘	宮川神社 宮司
組織委員長	南啓史	棚倉孫神社 宮司
財務委員	六人部是継	向日神社 宮司
財務委員	海部毅成	籠神社 禰宜
財務委員	田中義二	菅原院天満宮神社 総代
綱紀委員	中嶋保男	昨岡神社 宮司
綱紀委員	森川順行	由岐神社 宮司
綱紀委員	奈島正倫	八幡宮 宮司
監査委員	中小路宗廣	文字天満宮神社 宮司
監査委員	桂數毘詰	禊野神社 宮司
監査委員	山口琢也	晴明神社 宮司
事務局員	中森圭治	京都府神社庁 主事
事務局員	門野由里	京都府神社庁 録事
事務局員	稲永麻衣	京都府神社庁 録事

〔敬称略〕

## あしあと 事務局からの活動報告

【平成28年7月から11月まで】

平成28年	
7月2日	美しい日本の憲法をつくる京都府民の会洛南支部設立総会 梶本部長以下関係者出席 〈於 御香宮神社〉
7月10日	第24回参議院議員通常選挙投票日
7月11日	山谷えり子議員・二之湯さとし議員当選 祝電打電
7月13日	丹波五支部連合会総会 梶本部長出席 〈於 玉川楼〉
7月19日	教化委員会並びに関係団体代表者懇話会 梶本部長以下関係者出席 〈於 京都府神社会館〉
7月21日	創立45周年記念大会 400名出席 〈於 上七軒歌舞練場〉
〃	創立45周年記念清政60号特別号発行
7月29日	衆議院議員伊吹文明政経文化懇談会 梶本部長出席 〈於 京都国際会議場〉
8月10日	京都市上支部総会 梶本部長出席 〈於 京都プライトンホテル〉
8月15日	終戦記念日の集い 中嶋事務局長参列 〈於 靖國神社〉
8月19日	美しい日本の憲法をつくる京都府民の会 第8回企画委員会 関係者出席 〈於 京都國學院〉
8月21日	中支部神社総代会総会 室川副本部長出席 〈於 金刀比羅神社会館〉
8月26日	英霊にこたえる会運営委員会 藤森幹事長・中嶋事務局長出席 〈於 京都府遺族会館〉
8月27日	山城四支部連合会総会 梶本部長出席 〈於 酔月〉
9月3日	丹後六支部連合会総会 梶本部長出席 〈於 舞鶴グランドホテル〉
9月5日	日本会議・京都総会並びに日本会議縦断キャラバン隊報告式 70名出席 〈於 ホテルグランヴィア京都〉
9月9日	西田昌司参議院議員国政報告会 梶本部長以下関係者出席 〈於 ロームシアター京都〉
9月10日	監査委員会 梶本部長以下7名出席 〈於 リーガロイヤルホテル京都〉
〃	役員会 24名出席 〈於 リーガロイヤルホテル京都〉
9月15日	安倍首相靖國神社参拝訴訟（大阪）第1回口頭弁論 関係者出席 〈於 大阪高等裁判所〉
9月20日～21日迄	綴喜神社総代会総会 梶本部長出席 〈於 和歌山県 那智勝浦〉
9月30日	平成28年第2回定例代議員会 51名出席 〈於 京都府神社会館〉
10月5日	御奉迎日の丸小旗作成協力 〈於 京都府神社会館〉
10月7日	京都府神社庁神宮大麻暦頒布始奉告祭 関係者参列 〈於 京都府神社会館〉
〃	第26回神宮大麻暦頒布増強推進懇談会 関係者出席 〈於 京都府神社会館〉
10月19日	御奉迎日の丸小旗作成協力 〈於 京都府神社会館〉
10月26日	乙訓支部神宮大麻暦頒布始奉告祭並びに総代会総会 梶本部長参列 〈於 長岡天満宮〉
10月27日	英霊にこたえる会京都府本部第39回定期総会 梶本部長以下25名出席 〈於 新都ホテル〉
10月29日	参議院議員佐藤正久時局講演会 梶本部長出席 〈於 京都商工会議所〉
10月31日	日本会議近畿ブロック和歌山大会 梶本部長出席 〈於 ホテルグランヴィア和歌山〉
11月14日	洛北支部総代会総会 梶本部長出席 〈於 京都プライトンホテル〉
11月16日	京都市会議員寺田一博議会報告会 梶本部長出席 〈於 西陣織会館〉
11月17日	京都市会議員寺田一博議会報告会 梶本部長出席 〈於 上七軒歌舞練場〉
〃	京都府神社庁新嘗祭 関係者出席 〈於 京都府神社会館神殿〉
〃	京都府神社庁事務連絡会 関係者出席 〈於 京都府神社会館〉
11月18日	参議院議員二之湯さとし講演会 梶本部長出席 〈ANA クラウンプラザホテル京都〉
11月20日	自由民主党京都府連合会政経文化懇談会 梶本部長以下3名出席 〈於 京都国際会議場〉
11月28日	京都府戦歿英霊追悼慰霊祭並びに時局講演会 〈於 京都ガーデンパレス〉
〃	清政61号発行

# 御歌を拝し

逝きし人の御霊かと思つむ。パラオなる海上を飛ぶ白きアジサシ

天皇皇后両陛下は、平成二十七年四月、戦後七十年を機に御高齢を押しして先の大戦の西太平洋方面激戦地、パラオ共和国「ペリリュウ島」を御訪問になりました。パラオへの戦死者追悼・慰霊の旅は、十年前の戦後六十年の節目に、中部太平洋の激戦地「サイパン島」の慰霊を果たされたときからの、両陛下の長年の悲願であられました。

パラオは第一次世界大戦後わが国の統治下におかれ、五万人を超える多くの邦人が移住しましたが、終戦の前年にはこれらの地域で激しい戦闘が行われ、ペリリュウ島を始めとする幾つもの島で、一万人を超える日本軍兵士が玉砕しました。

天皇陛下は渡航前の御言葉の中で「太平洋に浮かぶ美しい島々で、このような悲しい歴史があつたことを、私どもは決して忘れてはならないと思います」と述べられました。

この皇后陛下の御歌は、お泊まりになった海上保安庁の船、「あきつしま」からヘリコプターで西太平洋戦死者の碑があるペリリュウ島に向かわれる途中、眼下にサイパン島のスーサイド・クリフでご覧になったのと同じ白いアジサシが飛ぶ様子をご覧になり、亡くなった人々の御霊に接するようだとお感じになりつつ見入られたことをお詠みになつています。

## 編集後記

孔子は「四十にして惑わず」と語った。四十五周年事業を終えたわが本部も、惑いの齡はとうに過ぎ、次なる節目五十年に向けてその歩を速めねばならない。現代社会は、憂慮するべき問題が山積だ。就中我々の悲願である「憲法改正」は、その実現が薄らとではあるが目前に見えてきた。憲法を改正すれば全てが解決するわけでもあるまいが、幾らかはまともな国家に立ち帰ろう。孔子は続けて「五十にして天命を知る」と語る。改憲への道程は予断を許さぬが、五十周年を迎える四年後には「天命を知る」が如く、我々の使命はより鮮明になる事だろう。準備研鑽を怠らずにいたい。

(史)



神道政治連盟京都府本部会報

清政 第61号

発行日：平成28年11月28日  
発行所：神道政治連盟京都府本部  
〒616-0022  
京都市西京区嵐山朝月町68-8  
電話075-863-6677  
編集協力：テンセイ・コモンズ